

— 企業間・産学連携による新技術・新事業の創出 —

### CONTENTS

#### メッセージ

ご挨拶  
副代表就任のご挨拶  
副代表就任のご挨拶  
活動経過報告

◆代 表 小林 憲一郎  
◆副代表 作佐部 博美  
◆副代表 佐々木 延幸  
◆幹 事 瀧 澤 薫

#### 特 集

トヨタ自動車(株) 嵯峨常務様 講演の報告

◆幹 事 佐 藤 淳

#### 寄 稿

1) 鳥海高原「桃野」“菜の花まつり”  
2) 「秋田新電元様」産学現場訪問の報告

◆幹 事 日向野 三雄  
◆幹事長 作左部 晃

編集後記



### ご 挨 拶

HY-TecNet 代 表

小林工業(株) 代表取締役社長

小 林 憲一郎

今年の夏は大変暑く、寝苦しい夜が続きましたが、会員の皆様には、お元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、このところ、わが国の景気は、「回復傾向をたどる」と報道されています。半導体産業は、携帯電話の需要増など回復基調にあり、設備投資も活発になっているとのことであります。一方、自動車産業は、9月のエコカー減税の終了を受けて、しばらくの停滞に備えて身構えている印象です。また、昨今の円高は収まる気配を見せず、輸出に係わる産業の業績を圧迫しております。一部では、一昨年からのリーマンショックによる影響は、克服されつつあるとの認識もあるようですが、来年以降の景気には不透明な見方も多くあり、予断を許しません。

世界では、中国を始めとする新興国への依存がますます高まっております。中国では、このところ賃金のアップを求める現地従業員のストライキが起こり、世界の工場としての役割はもはや終わりつつあるとも言われていますが、マーケットとしての存在は重さを増し、世界から資本を集めております。一方で、金融機関の不良債権、不動産バブルの飽和、環境問題など、不安材料も指摘されていますが、当面は、鉄道

など公共事業を中心に内需の拡大が見込まれ、成長を維持することが期待されています。しかし、中国経済の発展の影で、日本の企業が衰退していくわけには行きません。私は、日本企業の力は、課題を認識し、その解決のために自ら努力する能力を持つことであると思います。この姿勢がある限り、いろいろな条件はあるにしても、まだまだ競争力を維持し、成長できる可能性があると思います。

さて、東北では、トヨタ自動車の関連企業が仙台周辺に集約し、生産拠点として本格的な稼働をめざしている、との報道があり、由利本荘地域においても、その一翼を担うことへの期待は大きいものがあります。もちろん、先方の要望と当方の能力が一致するのか、難しいところもありますが、地域の連携によっては、可能性が広がるものと思います。

ところで、この度の総会で役員、幹事の異動がありました。TDKの倉石茂樹さん、秋田新電元の吉田進さんおよび須藤一知さんほか、退任された皆様には、長い間大変お世話になりまして、誠にありがとうございました。また、新しく役員、幹事に就任されました皆様には、いろいろお手数をおかけいたしますが、よろしく願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様の、ますますのご発展を祈念し、挨拶いたします。



### 副代表就任のご挨拶

HY-TecNet 副代表

TDK (株) 秋田総務部長

作佐部 博美

残暑の候、本荘由利テクノネットワーク会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。2010年度総会で副代表を仰せつかったTDK(株)秋田総務部の作佐部博美と申します。今後、

宜しくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本荘由利テクノネットワークの設立は2000年9月とお聞きしています。日本は1980年頃から2000年位まで【ものづくりの日本】と世界中から評価されてきました。それ以降はいろいろなものづくりが苦戦しています。本会は【本荘由利の広範な業種分野の技術者、研究者、市民の有志が自主的相集い、地域の産業界の活性化と科学技術の振興による地域づくりに向けて、共に研鑽し、相互に連携しあうとともに積極的な情報発信を行う場として設立する】が設立趣旨と認識しています。【ものづくりの日本】が弱体化に向かう兆候をいち早く見抜き、危機感を共有し設立されたことは先見の目があったと思います。

設立趣旨を具現化し、成長するには人材(人財)をいかに確保、育成するかが鍵です。本会でも、ものづくり担い手人材育成に力をいれているとお聞きしています。人が育つには、一人ひとりが成長への意欲を自発的に醸成できる気づきの環境が必要です。常に問題意識をもって知恵を絞り積極的にチャレンジ

する、指示待ちでない自律型人材(人財)を継続的に確保、育成していくことが、企業の成長には必須です。本会の構成企業の継続的成長を支える人材(人財)確保、育成のため微力ながら努めてまいり所存です。

話はかわりますが、TDK硬式野球部の部長も担当しています。今年は都市対抗野球(東京ドーム)への出場権は逸してしまいました。皆様のご期待に応えられなく残念ですが、引き続き絶大なる応援をこの場をお借りしてお願い申し上げます。

最後になりますが、会員皆様のますますのご発展を祈念申し上げ、就任の挨拶と致します。



### 副代表就任のご挨拶

HY-Tec Net 副代表  
㈱秋田新電元 代表取締役社長

佐々木 延幸

この度、弊社前社長の吉田進に替わり本荘由利テクノネットワーク副代表を務めさせてさせていただくことになりました(株)秋田新電元の佐々木延幸でございます。本会に加えていただいたばかりで副代表という大役を仰せつかり戸惑っているところですが、この本荘由利テクノネットワークの発展に少しでも貢献できるよう努力していく所存ですので、何卒ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

「HY-Tec Net 通信」を拝見しますと、本荘由利テクノネットワークは2000年9月に、本荘由利地区の異業種分野の経営者、技術者、研究者の有志の方々がこの地域の産業界の活性化と科学技術の振興による地域づくりを目的に設立され、会員相互の産業現場訪問会や官公庁、大学、各種業界の有識者の方々を招いての講演会、他地域との交流など活発な活動を続けられてきたことがよくわかります。

ところで、日本の状況はバブル崩壊後「失われた10年」とも「失われた20年」とも言われる長いトンネルから抜け出せないでいて、「世界第二の経済大国」という看板も今年はお隣の中国に引き渡すことになりそうです。世界の中でどんどん日本の影が薄くなっている感じがします。しかし、安かろう悪かろうといった製品や知的財産権を無視した粗悪な偽物が大量に出回っている中国で、富裕層が割高な日本の食品や工業製品、キャラクターグッズ等をわざわざ買い求めているという記事を読みました。安全・品質・保証に裏打ちされた日本の食品や製品に対する信頼がそうさせるのだと思います。また、閉塞感のある日本の中で

ユニクロのようにアイデアと実行力で急成長している企業があることも事実です。

従って、しっかりとした技術と品質にこだわったもの造りを基盤にして、如何にして世界に打って出る商品や産業を生み出せるか・・・難問ですが、本会の活動を通じて解を探していきたいと思えます。

最後になりますが、会員皆様のますますのご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



## 活動経過報告

HY-TecNet 幹事

小林工業(株) 常務取締役 瀧澤 薫

HY-TecNet通信25号発刊にあたり、活動経過をご報告申し上げます。

4月9日(金)に第8回現場訪問会として、51名が参加し、株式会社秋田新電元様の「QPサークル発表大会」を訪問いたしました。この大会は、文化会館に社員の方が集合して、各サークルの成果発表を行う社内の行事ですが、秋田新電元様のご好意により、会員の皆様に公開していただきました。第49回と歴史を重ねた大会であり、各サークルとも創意に溢れた素晴らしいプレゼンテーションでした。詳細については、作左部幹事長の報告をご覧ください。

5月24日(月)に幹事5名で打合せを行いました。テーマは、本年度総会に係わり、役員会・幹事会に諮る議案の準備として、開催日時、議案の確認、記念講演、役員・幹事の異動等です。

6月8日(火)に、役員会・幹事会を、15名の出席で、本荘由利産学共同センターにおいて開催しました。議題は、本年度総会の内容と記念講演についてであり、①記念講演は、財団法人本荘由利産業科学技術振興財団と共催で開催することとし、トヨタ自動車株式会社 常務役員 嵯峨宏英氏 に依頼すること、②2009年度事業報告ならびに会計報告、③2010年度予算案ならびに事業計画案、④役員、幹事の異動等について、審議を行いました。本年度は、役員の改選時期ではありませんが、役員・幹事の所属の異動等がありましたので、今後の運営体制を確認するため、併せて審議いたしました。

7月2日(金)に、ホテルアイリスにおいて、会員総会を47名の出席で開催しました。小林代表の挨拶の

後、2009年度事業報告ならびに会計報告、②2010年度予算案ならびに事業計画案、③役員、幹事の異動について審議を行い、承認をいただきました。主な役員・幹事の異動を紹介しますと、副代表の TDK株式会社 倉石茂樹 秋田総務部長、ならびに株式会社秋田新電元 吉田進代表取締役社長が退任され、後任として TDK株式会社 作佐部博美



小林代表の挨拶

秋田総務部長、ならびに株式会社秋田新電元 佐々木延幸 代表取締役社長 が就任されました。その他では、幹事長の須藤一知氏、幹事の赤坂和仁氏、佐藤晃一氏、田口純一氏が退任され、新たに、幹事長に作左部晃氏、幹事に佐川祐喜氏、本郷太信氏、佐藤俊一氏、森孝良氏が就任されました。また、空席となっておりました事務局長に工藤英也氏が就任されました。詳しくは、最終ページの役員・幹事一覧をご参照ください。



2010年度総会

退任されました皆様には、大変お世話になりました、誠にありがとうございました。特に、須藤一知前幹事長には、当会設立時から幹事長に就任されまして、その抜群の知性と行動力と暖かいお人柄で、当会の継続と発展にご尽力いただきました。重ねて厚く御礼申し上げます。

会員総会后、会場を移し、トヨタ自動車株式会社 常務役員 嵯峨宏英氏の記念講演会を開催しました。嵯峨常務は本県のご出身であり、そのご経歴から始まって、エコカーの種類と仕組み、また今後の展望について、大変懇切かつ具体的な講演をいただきました。内容は、佐藤淳幹事の報告をご覧ください。

その後の交流会は、小林代表の乾杯の音頭に始まり、秋田県産業技術総合研究センター斎藤昭則 所長 にテーブルスピーチをいただき、多くの皆さんが嵯峨常務と名刺交換・懇談をされるなど、なごやかな雰囲気の中、市議会の渡部功議長の締めでお開きとなりました。



記念講演後の交流会

7月16日(金)に広報担当幹事の打合せを行い、HY-TecNet通信25号の内容について検討を行っております。 以上、経過をご報告申し上げます。

## 特集：エコカーの展望と本荘由利地域の可能性

講師 トヨタ自動車(株) 常務役員 嵯峨 宏英 氏

報告者 HY-TecNet 幹事

(株)三栄機械 取締役営業本部長 佐藤 淳



さる7月2日(金)当本荘由利テクノネットワーク総会終了後、ホテルアイリスにおいて男鹿市出身の嵯峨常務様を講師に、財団法人本荘由利産業科学技術振興財団主催、本会後援による講演会が開催され、当 HY-Tec Net 会員や県、由利本荘、にかほ両市の関係者約190人が聴講するという盛況ぶりでした。



新聞でも報道されました



約190名が参加した記念講演

嵯峨常務様は武蔵工業大学時代から水素エンジンの研究をされ、トヨタ入社後、世界初のスーパーチャージャー付エンジンの開発、その後、開発企画で

ゴルフクラブ開発や焼結チタンボロン開発、その後レース用エンジン開発を経て F1 レース参戦、インディ500初優勝などモータースポーツ分野でも輝かしい実績を残し現在はドライブレイン技術領域、ハイブリッド技術領域をご担当されております。講演の内容は大きく、Ⅰ. ハイブリッド車、Ⅱ. 電気自動車、Ⅲプラグインハイブリッド車、に関する現状と課題、これからの展望をわかり易くパワーポイントで説明されました。

まずはじめに、自動車社会全体における課題として地球人口増加による自動車の増加それに伴う化石燃料の消費急増、そこから導き出される



そこで、トヨタの考えるハイブリッドシステムを備えることでEVの不安を解決した車、プラグインハイブリッド車の登場となる。

市街地では主にEV走行、長距離・高速走行はハイブリッド走行、しかも家庭用電源エネルギーによる充電のため、政府によるインフラ整備を待つことなく対応が可能に。これを2年後には、数万台規模で皆様の手の届く価格で市販を目指しています。

同時にプリウスよりも小型で安いハイブリッド車を近くに発表しますが、東北で生産し、トヨタは現地調達の基本、秋田も仙台、北上へは山をひとつ越えるだけなので大いにチャンスはあります。

プリウスよりも売れる車になるのは間違いないので、皆様もどうか部品供給に挑戦してみたいはかがでしようか。と結ばれました。



Ⅲ、プラグインハイブリッド車  
プリウス PHV システム概要

	プリウス PHV	プリウス
車両サイズ(全長/全幅/全高)	4460/1745/1490mm	—
車両重量	1490kg	1,350kg
乗車定員	5名	—
モーター最高出力	60kW(82PS)	—
システム最高出力	100kW(136PS)	—
2次電池(容量)	リチウムイオン電池(5.2kWh)	ニッケル水素電池
エンジン排気量/最高出力	1,797cc/73kW(99PS)	—
プラグインハイブリッド燃費	57.0km/ℓ	—
ハイブリッド燃費	30.6km/ℓ	32.6km/ℓ
EV走行距離	23.4km	約2km
EV走行最高速度	100km/h	55km/h
電力消費率	8.57km/kWh	—
充電時間	約100分(200V)、約180分(100V)	—

さて、この度の嵯峨常務様のご講演を拝聴し、我々の知らないところで秋田の出身者が世界的にご活躍されていることを嬉しく感じ、同時にトヨタ自動車の世界戦略、今後の展開のひとつまを垣間見ることができました。少しトヨタという大企業がとても身近に感じられたご講演でした。ありがとうございました。今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



## 寄稿 1：鳥海高原「桃野」“菜の花まつり”と HY-TecNetの未来について

HY-TecNet 幹事

秋田県立大学 地域連携・研究推進センター 特任教授 日向野 三雄



“HY-Tec Net”通信の読者は、「菜の花」と聞くとどんなことを思いますか？ 花瓶に挿した一本の菜の花でしょうか？ 欲張りな私は、青い空の下、ひろい広い黄色の絨毯、「菜の花畑」を思い浮かべますが、そんな風景が去る5月22日(土)、23日(日)に出現しました。写真のように、残雪の鳥海山を背景にした標高約500mの鳥海高原「桃野」(旧矢島町)は幸い晴天に恵まれて、2日間で約9,000人が来場し、素晴らしい風景を堪能しました。自動車で菜の花畑の傍まで行けない不便さや準備・宣伝不足にも拘らず予想外の人出に吃驚し、また24日(月)朝からの土砂降りの雨に二度びっくりしました。来場された普段行いの良い皆さんに厚く感謝致します。



この“菜の花まつり”の目的は「地元でも良く知らない鳥海高原の魅力を広く県内外にアピールし、農業、観光、環境、グリーンツーリズム、体験学習などを融合させた地域活性化の機運を高める」ことであり、同まつり実行委員会と共に地域貢献を標榜する秋田県立大学も主催者になりました。同委員会にはNPO法人あきた菜の花ネットワークや環境系諸団体、桃野

畑地利用組合、JA 秋田しんせい、農業系・建設系の多数の民間企業、由利地域観光振興会、秋田県由利地域振興局、由利本荘市役所、県立大学(教職員と学生)、多数の有志個人が参加し、また“同まつり”の趣旨に賛同して下さった由利本荘地域、県内各地の民間企業、関係諸団体、個人の皆様が資金・人手の両面から篤く支援しました。紙上をお借りして、心より御礼申し上げます。

さて“HY-Tec Net”通信に“菜の花まつり”を紹介するのは、「低炭素型、循環型社会形成」の必要性からですが、釈迦に説法ですね？ 現在の産業活動は、地球内部に埋蔵されたエネルギー資源“炭素”の石

炭(固体), 原油(液体)を燃焼させ熱エネルギーを取り出し動力源とし, 二酸化炭素(気体)を廃熱と共に大気中に拡散させて“回収しない非循環型活動”です。急増した二酸化炭素ガス濃度が地球温暖化の主な因との主張や, 化石資源枯渇問題からも「低炭素型, 循環型社会」の形成を迫るものです。

工学系・バイオ農学系2学部の秋田県立大学は, 学長主導で「工農融合プロジェクト研究」を実施中で, 平成18年度から秋田キャンパスの佐藤了・現学部長を代表者に「秋田型の循環型社会づくりに向けた菜の花多段階利用方式の開発と実証」研究を開始し, 本荘キャンパスから私も含む若手研究グループが参加している。通称「菜の花プロジェクト」では, 失われて久しい菜の花栽培技術の復活, 菜種油の商品化・販売法の工夫, 絞り粕の飼料・肥料化, 廃食油の収集システム作りやバイオディーゼル燃料化・冬季使用技術などを研究している。二酸化炭素を吸収・固定した菜種を搾油したまま, あるいは廃食油をディーゼル燃料に利用し, 燃焼排ガスを再び菜の花に吸収させる“炭素循環プロセス”を社会が如何に認知して実行するかシステムの創りが最終課題である。しかし「言うは易き, 行なうは難し」であって, 原油価格が先日の高騰程度では, 急速な展開は望めない状況である。

しかし良く考えれば直ぐ分かるように, 例えば農業用トラクターに自分の畑で栽培した菜種から自分で燃料化した安価な自家製バイオディーゼル油を自己責任で使用すれば, 経済性に優れ, 環境に優しい農業へと変貌しませんか? そして, 原油高騰に関係ない安定した農業になるのではありませんか??

所で, “『本荘由利テクノネットワーク』は, 秋田県本荘・由利地域の産業界の自立的・創造的活性化を目指し, 広範な業種分野の技術者と研究者, 市民が自主的に相集い, 互いに研鑽し, 相互に連携しあうとともに積極的な情報発信を行う場”と謳っていますが, 現状はどうでしょうか?

今回の“菜の花まつり”は, 従来の「産学官連携」でなく, 広範囲の**熱意ある民間**主導型の活動に地方公共団体・地域準公的団体が**熱心に支援**する「産学**公民**」という新しい連携スタイルが醸成されたせいか, 結果は大成功でした! 『本荘由利テクノネットワーク』の今後の活動に参考になれば幸いです。

## 寄稿 2 : 第 7 回現場訪問会

訪問先 (株)秋田新電元 QPサークル発表大会

報告者 HY-TecNet 幹事長

(株)秋田新電元 第2製造部長 作左部 晃



これまでの現場訪問会は訪問先の作業現場を見学して来ましたが、今回は少し視点を変えて、秋田新電元の『QPサークル発表大会』を見学しました。

QPとは、QC(品質管理)とTPM(全員参加の生産保全)を合わせたもので、秋田新電元の体質改善のベースとなっている活動です。この大会は、社内 74 チームの中から選ばれた各部門の代表 10 チームが社長賞(最優秀賞)を目指して全従業員の前で活動結果を発表するイベントです。また、今回は秋田県立大学の嶋崎先生から「QCの心で地域に活力」と題して講演もして頂きました。

訪問先 (株)秋田新電元QPサークル発表大会 (本荘文化会館)

日時 2010年4月9日(金) 8:45~12:50

参加人数 51名(一般企業41名、行政関係者10名)

発表テーマ

- |                     |        |
|---------------------|--------|
| ① ラベル間違い防止の改善       | 品質改善   |
| ② 外観検査装置の不良低減       | 原価低減   |
| ③ 白金拡散工程の不具合未然防止活動  | 品質改善   |
| ④ パソコン内データファイルの管理   | データの5S |
| ⑤ 定期交換部品の管理方法改善     | 原価低減   |
| ⑥ 予備部品の管理方法改善       | 原価低減   |
| ⑦ メッキライン工程の事故未然防止活動 | 事故未然防止 |
| ⑧ 工程飛ばしの再発防止活動      | 品質改善   |
| ⑨ 組立工程の作業効率改善       | 原価低減   |
| ⑩ 治工具修理費用の削減        | 原価低減   |

今年度の社長賞を受賞したテーマは上記の⑨  
でした。活動内容は、クレームの再発防止策のため  
に作業時間が増えてしまった作業工程を、品質  
を確保しながら従来の作業時間まで短縮した内容  
です。

効果金額が大きかったことはもちろんですが、  
短期間で多くの改善を全員参加でやり切ったことが  
評価されました。副賞として、金一封と国内旅行が  
贈られます。



社長賞を受賞した「わかばサークル」



秋田県立大学 嶋崎先生の講演

秋田県立大学の嶋崎先生の講演では、QCとは作業  
従事者チームが自主的に改善活動することで組織を良く  
する活動であること、これが地域に産業を誘致する強力  
な武器になること、そして、自分たちの力で解決できない  
問題は大学の知恵を利用する方法もあること、などとても  
参考になりました。改めて、QPサークル活動の重要性を  
認識するとともに、この由利本荘で、もの造りで生き残り

続けるためには、さらに充実させねばならないと感じました。

大会の最後に、発表全テーマの講評と、秋田新電元の品質の現状について、工場長から説明がありま  
した。品質とは顧客からの期待の乖離であること、期待とは将来に渡って故障発生がゼロであること、これ  
に対して秋田新電元の品質は4ppbであること、期待に応えるためには全員参加の品質未然防止活動が  
重要であること、この由利本荘の片田舎でもトヨタグループから認められた会社であること、慢心することな  
く世界一の品質を造りこめる会社を皆で目指そう、という内容でした。

### アンケート調査のまとめ

秋田新電元の今後のQPサークル活動に活かしたいと思い、会員の皆様から今回の見学后感想・意見・  
アドバイスをいただきました。ご協力ありがとうございました。以下に抜粋した内容を記載します。

## 【感想・意見】

- 1) QP発表大会が第49回と数を重ねられて、何事も継続することの大切さを感じた。
- 2) 一個一々の積み重ねの重要性を再認識できた。
- 3) ポカヨケ対策としてバーコードは効果あります。是非実現して下さい。
- 4) パソコンのデータファイルの5Sは参考になった。自社でも展開したい。
- 5) 消耗部品交換管理方法のシステム化は素晴らしい。参考になった。
- 6) 原因分析の方法、対策のとり方など大変参考になった。
- 7) サークル員全員が前に出て挨拶することはよかった。
- 8) 作業者自身が損失時間・費用及び効果について良く理解している。この活動がボトムアップされ良いスパイラルで回っている感を得た。
- 9) 各工程の皆さんの改善に対する意識の高さ、生産効率UP、安全への意識対策と良い事例を聞かせて頂き参考になった。従業員の皆さんがコストへの意識の高さが強く感じられた。当社においても周知を図りたい。
- 10) 自社でもサークル活動の復活を検討したい。
- 11) 会社TOPがサークル活動を大切にしている。
- 12) 活動結果発表においてレポート作成方法を統一して負荷軽減を図り交替シフトでも活動しやすい環境に気を配っている。
- 13) 効果の大小にこだわらず、チームとして継続活動する主旨をメンバーが理解・認識している。
- 14) 小さな効果でも意見交換することで改善に繋がる運用体系体制ができている。
- 15) 改善しようという意識の高さに驚いた。
- 16) 年間1,000万円近い効果がでたサークルもあり、これも驚きです。
- 17) 改善への意識意欲を見習いたい。
- 18) 発表がうまくまとめられており、スライドと発表者がいずれも連携がとれて素晴らしい。
- 19) 効果が金額で見えて分かりやすかった。
- 20) 大変参考になりました。次回も見学できればと思います。
- 21) ファイル名のルール化は良い。参考にしたい。検査ファイル以外への展開も期待する。
- 22) このような活動と49回という継続が中国等にはできない強みと感じた。

- 23) グループ員の平均年齢が若く活動内容が良くまとめていたと感じます。
- 24) 各サークルメンバーの紹介など会社全体でこのQP活動を推進している仕掛けがうまい。
- 25) 全従業員の皆様が日頃より良い会社造りの為に活動されていることが伝わってきた。
- 26) 私も会社に戻り、再度、当社活動の確認と新たな指導を行いたいと思います。
- 27) 生産減・人員削減・操業度低下と大きく環境が変化した中で、QPサークルが取り組むべき又、取り組める事も変わりつつある感想を持った。生産増が続いていた時期は得てして見過ごされがちな“無駄の排除”に対して多くのサークルが取り組んでいたことが印象に残った。これらは効果金額は小さいことが多いが、工程の体質を改善し、高品質・高信頼性の製品を具現化するにはとても大事な取組みだと考えている。いずれこのサークルも地味ですが着実に成果を求めべく活動を続けているのが印象に残った。

#### 【改善点・アドバイス】

- 1) 労働災害の未然防止は、水平展開したほうがよい。
- 2) 積極的な質問が出なかったことは残念です。
- 3) 発表に対する質問が無いのが残念です。
- 4) 効果の確認ができないサークルあったが、目標設定が曖昧になるので数値化したほうがよい。
- 5) 事故防止対策として、「気を付ける、注意するようにした」では対策が不十分。危険作業ができないしくみ作りが必要です。
- 6) 全体として、QC手法・7つ道具をもっと多く活用して、文字ではなく図で表すともっと良い。
- 7) 社内の別部門へ依頼した時の費用は0円としていたが、費用はかかっているのではないか？
- 8) スライドの青色バックに赤字は見づらく感じた。緑色バックに黄色文字も。
- 9) 業務内容が良く分からないのでポイント部分はもっと詳しく説明してほしい。
- 10) 金額で効果が出せなくても、過去(改善前)との比較があれば分かりやすい。
- 11) 発表に関しては各資料にNo(ページ数)が明記されていなかった。グラフや絵などもっと使用できれば初めて発表を見る人にも内容が多く伝わると思う。
- 12) 質問の時間等をもっと長くし、各サークルの代表の感想以外に意見がもっとあればよかった。

…… 編集後記 ……

お忙しい中「HY-TecNet通信第25号」にご寄稿いただきました方々に厚く御礼申し上げます。

連日の猛暑の中での編集作業中にうれしいニュースが飛び込んできました。佐竹知事からハイテクネットの小林代表あてに、「秋田県工業功労者表彰」が決定したとのことです。9月6日(月)に県庁で表彰式が予定されていますので、次の第26号でご紹介したいと思います。

さて、去る7月2日の2010年度総会で、役員・幹事の新任・退任・異動が承認されました。退任された方々はこれまで大変ご苦勞様でした。そしてお世話になりました。深く感謝を申し上げます。新任・異動の方々には、HY-TecNet の事業活動に積極的に参画いただくとともに、多くのご指導・ご助言をいただきたくよろしくお願い申し上げます。

**本荘由利テクノネットワーク新役員体制にご支援、ご協力よろしく申し上げます。**

代 表	小林工業(株) 代表取締役社長	小林憲一郎	
副 代 表	TDK(株) 秋田総務部長	作佐部博美	(新任)
副 代 表	(株)秋田新電元 代表取締役	佐々木延幸	(新任)
副 代 表	(株)三栄機械 代表取締役	細矢 育夫	
副 代 表	丸大機工(株) 代表取締役社長	菊地 兼治	
副 代 表	プリマ食品(株) 代表取締役社長	丹羽 博和	
副 代 表	秋田精工(株) 常務取締役	平尾 哲也	
顧 問	横手精工(株) 常務取締役	堀川 修平	
幹 事 長	(株)秋田新電元 第2製造部部長	作左部 晃 (総 括)	(異動)
幹 事	(株)秋田新電元 開発部長	佐川 祐喜 (現場訪問)	(新任)
幹 事	秋田精工(株) 第2製造部営業課長	佐藤 健司 (現場訪問)	
幹 事	アルファ・エレクトロニクス(株) 取締役工場長	工藤 広喜 (現場訪問)	
幹 事	小林工業(株) 常務取締役	瀧澤 薫 (現場訪問)	(異動)

幹事	(株)三栄機械 取締役営業本部長	佐藤 淳 (広 報)	
幹事	積進工業(株) 品質環境課長	鈴木 恭一 (広 報)	
幹事	北都銀行 本荘支店長代理	本郷 太信 (広 報) (新任)	
幹事	秋田県立大学 教授	小笠原 正 (連携推進)	
幹事	秋田大学 准教授	森川 茂弘 (連携推進)	
幹事	秋田県立大学 特任教授	日向野三雄 (連携推進)	
幹事	JETRO 秋田貿易情報センター所長	佐藤 秀二 (連携推進)	
幹事	由利本荘市商工振興課長	佐藤 俊一 (会員拡大) (新任)	
幹事	にかほ市商工課長	森 孝良 (会員拡大) (新任)	
幹事	由利本荘市商工会 事務局長	鈴木 芳紀 (広 報)	
幹事	にかほ市商工会 事務局長	佐藤 研 (会員拡大)	
事務局長	本荘由利産学共同研究センター	工藤 英也 (事務局) (新任)	
会計監事	岩田光学工業(株) 代表取締役社長	岩田 好實	
会計監事	(株)大沼組常務取締役	大沼 武彦	
退任	幹事	由利本荘市商工振興課長	佐藤 晃一
	幹事長	(株)秋田新電元 取締役工場長	須藤 一知
	幹事	(株)秋田新電元 管理部	田口 純一

\*\*\*\*\* 編集委員 : 瀧澤薫、佐藤淳、鈴木恭一、本郷太信、鈴木芳紀、作左部晃 \*\*\*\*\*

HY-Tec Net 事務局 : (株)秋田新電元大浦工場内 TEL0184-22-2327 FAX0184-24-4354  
HY-Tec Net 連絡窓口 : 本荘由利産学共同研究センター TEL0184-22-3488 FAX0184-23-7460